



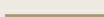
溺愛系の面白さ



20240406



エリー



目次

本文	1
----------	---

本文

「官能小説の溺愛系の恋愛部分が好き」といったら、「恋愛小説を読め！」と返された。

ちがうんだよー。
でもうまく言えない。

わかったわ。
エッチなシーンも省略せず、エッチなシーンでの気持ちは読みたいけど、行為そのものは他人事なので興味がないのだ。

「好きだから触れあいたい」という気持ちには共感できる。

でも健康じゃないから、行為には共感できない。

だから溺愛系が好きなんだなって。

好きなので触れあいたいけど、本当に愛されているのかしら？
という揺れを経て、信頼関係できるまでが描かれてるから。

ほら、手を繋いだことがない、キスきたことがない、セックスしたことがない。

そういう未経験の時は、「セックスしたら変わるはず」とか、思うじゃん？

でも、セックスしても、急に信頼関係ができる訳じゃない。

エッチなことをしても、絆は深まらない。

そこからがスタートじゃない？

「付き合ったら変わるはず」と思ってたのに、現実はそうじゃなかった。

その絶望感を癒してくれるのが、溺愛系なのよ。

溺愛されてるからじゃないの。

「互いに好きなのに、それでもわかり合えない」という葛藤の克服がおもしろいの！

「好きでもなかなかわかり合えないのに、そんなに好きじゃないならわかりあえるわけないよなー」という諦観も得られる。

まして嫌いなら、噛み合わないのは当然だよ。

そんな気持ちになるんだよー。

溺愛系の面白さ20240406

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
